

松本千代榮先生の^{おし}訓えを心に刻む

丸 茂 美恵子

はじめに

松本千代榮先生が天寿を全うされ、はや、ひととせを迎えようとしております。

多くの皆さま方は、それぞれ大切な思い出に浸っていらっしゃるものと存じ上げます。

この度、『舞踊學』46号にて「追悼：松本千代榮先生」を特集する運びとなり、末席に名を連ねさせていただくことになりました。

1. 舞踊は“流れ”というものが大切

松本先生との出会いは、わたくしが日本大学を卒業した昭和52年に開催された秋の大会で研究発表をした時に遡ります。

しかし、松本先生から直接お声をかけていただいたことを今でも鮮明に覚えていますのは、たしか58年秋の大会にて日本舞踊の振りの分析結果について口頭発表をした時のことです。発表のあと、「丸茂さん、舞踊というのは分析だけではなく、“流れ”というものが大切ですよ」という主旨のご助言を賜りました。

じつはその2年前の大会でも、わたくしは振りの分析結果について発表をしていましたから、松本先生は舞踊の本質を忘れないように、と広い視点から論してくださったのだと思います。

わたくしは大学を卒業後、恩師目代清先生のご指導のもと、舞踊学会中心に研究発表をしてまいりましたが、常に発表会場の後方の席でわたくしたち若手の研究発表を静かに傾聴されていたり、松本先生のお姿がありました。

その後も松本先生にお目にかけていただき、わたくしの舞踊学研究への励みと支えのひとつになったことは、今も確信をもって言えます。

2. 瀟洒なご自宅マンションにて

故目代先生が舞踊学会設立時からの理事のおひとりでしたこともあり、わたくしは早くから幹事という立場を拝命しました。そして、錚々たる理事の先生方に接することができましたのは、この上もない宝物です。

初期の頃の理事会は、松本先生の瀟洒なご自宅の高層マンションのひと部屋で行われたこともあり、懐かしい思い出となっております。

それとともに、初代会長の郡司正勝先生が「高い学問的水準への上昇と、広い普及と、より豊かな実りとを願って」と『舞踊學』創刊号に寄せら

れたおことばのとおり、理事の先生方が一丸となって和気あいあいとした雰囲気^{おし}で学会運営に携わっていた様子を、わたくしは間近に拝見できたのが得難い体験であったと言えます。

3. 20周年記念号刊行のおことば

二代目会長に松本先生が就任の期間中、学会は創立20周年を迎えることになりました。

その時の記念事業のひとつが、『舞踊學』増刊号『舞踊学会創立20周年記念 シンポジウム「われわれの時代にとって舞踊とは何か』』の刊行です。

僭越ながら、その時はわたくしも理事として、第3巻である「舞踊への接近 現象とその研究法」の編集に参画いたしました。

その刊行委員長をつとめられた松本先生による「刊行のことば」は、

舞踊学の進展が、人間存在と舞踊文化の^{メカニズム}機制をより明らかにし、より豊かな人間社会を築く美と感動の基層を保証するものとなるように願っている。云々

と結ばれていらっしゃいます。

おわりに

舞踊学の進展に終わりはありません。

これからも、わたくしたちは松本先生のご遺志を継いで、舞踊学の向上に邁進していきたいと存じております。

(令和5年8月19日記)